

為替戦争

この20年間で、日本に出回っているおカネの量は40兆円から130兆円に増えました。でもGDPは横ばいです。すから、金融緩和は効果がないと言う人もいます。これはまったくの誤り。そういう人は日本国内のデータしか見ておらず、国際的視点が完全に抜け落ちている。20年で日本のおカネの量

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2013年2月18日 (月) NO. 290

地域から明るい未来を作ろう

事務所は3月2日9日営業18日19日休業です

が3倍になったと言います。が、OECD(経済協力開発機構)の加盟国はもともと大量におカネを増やしている。特に、07年の金融危機以降、米国はドルの量をどんどん増やしましたが、日本は円をほとんど増やさずにきたのです。

各国は、金融危機だ、このままでは国家破綻だと言って、凄まじい勢いで金融緩和をしてきた。たとえばドルやユーロ、ウォンの量が2倍になったのに、円の量が変わらなければ、円のみ価値がハネ上がって超円高になる。われわれはその状況に、ひたすらじっと耐えてきた。

しているのだから、正直、開いた口が塞がらない。

サムスン、ヒュンダイといった韓国の子幹企業がウォン安の恩恵で業績を伸ばし、日本のメーカーを圧迫してきたのは周知の事実。円安が進めば攻守が逆転し一転、韓国企業が存亡の危機を迎える。円安・ウォン高など「あつてはならない」ことだと。そしてそれは米国、欧州にとつても同じ。ゼネラル・

自然界に存在する人間の掟は誠に厳しい。しかもこれは永久に変わらなず、その昔から永遠の将来まで、証として実存している。

真理は峻厳(しゅんげん)にして侵すべからず。間違つた生き方に対する正しい心構えが万一にも用意されないと、たちまち、事実が反省を促します。その反省を促す事実とはいかにといえ、病なり不運です。

モーターズ(GM)などの自動車大手を代表し、米自動車政策会議のブランド会長は1月17日、円安について、「貿易相手国を犠牲にして自国の成長を図る『近隣窮乏化政策』であり、受け入れられない」などと非難声明を発表した。

「日本の主張」をしておかなければならない。「今までさんさん円高を助長する政策を繰返し、自分たちは通貨安で儲けてきたのは誰でしょうか」と、元財務官僚の高橋洋一氏が述べています。

どうも現代文化教養を受けている理知階級は、人生に侵すべからざる報償の法則があるということに対して、正しい自覚を持っていない傾向を

はありません。アクシデントというものは、自己が知る、知らないを問わず、必ず自己が蒔いた種に花が咲き、実がなつたんです。

自分で蒔いた種

どんなことであろうと、事の大小を問わず、知る知らないを問わず、すべての人生の出来事は偶然に生じたもので

「生きる心構え」というものに正しい自覚が、そして反省が、常に油断なく行われていないで生きると、ぜんぜん自分が気のつかないような悪い種を、健康的にも運命的な方面にも蒔いてしまうんです。

—中村天風

